

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

- 分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験 -

1. 今後の見通し

予測期間: 2002年11月下旬から12月上旬まで
 対象海域: 道東海域、三陸海域、常磐海域
 対象漁業: さんま棒受網漁業
 対象魚群: 南下回遊群

1) 道東海域

- (1) 来遊量: 来遊量は極めて低い水準と推定される。
- (2) 漁場: 漁船による操業はなく、漁場は形成されない。

2) 三陸海域

- (1) 来遊量: 来遊量は11月下旬は平年を下回る低位の水準で推移し、12月上旬には断続的となる。
- (2) 漁場: 漁場は11月下旬も南部の海域に偏る傾向となり、12月上旬には散発的な漁場形成となる。

3) 常磐海域

- (1) 来遊量: 来遊量は11月下旬には前年を上回る平年並みの中位の水準で推移し、12月上旬には減少する。
- (2) 漁場: 常磐南部から犬吠埼周辺の漁場が持続して形成される。

2. 予測の概要

海 域		11月下旬	12月上旬
道東海域	来遊量		
	動向		
	漁 場		
三陸海域	来遊量	————▶	—— —▶
	動向	低位水準	断続的
	漁 場	南部	散発的
常磐海域	来遊量	————▶	————▶
	動向	中位水準	急減傾向
	漁 場	鹿島灘 犬吠埼周辺	鹿島灘 犬吠埼周辺

3. 漁況の経過概要

(11月上旬)

11月上旬の漁況経過の特徴は、漁獲状況からみた来遊量が道東海域で前年・平年並みの水準であったが、三陸海域では前年・平年を大きく下回り、一方常磐海域では増加傾向となり前年・前々年を上回る水準に達した。漁場は、シケ後、襟裳岬南からトドヶ崎沿岸にかけと常磐南部～鹿島灘～犬吠埼沿岸域に形成され、後半には三陸中・南部沿岸、金華山南沖及び常磐中・南部～犬吠埼沿岸に広く分散して形成された。魚体組成は大型魚、中型魚、小型魚の割合が全般に2-3-5～2-4-4主体であったが、後半の三陸海域では大型魚の割合が減少し、小型魚の割合が増加した。

1) 道東海域

- (1) 来遊量: 11月上旬の来遊量は前旬に比べ大きく減少したものの、三陸海域に接する襟裳岬沖への来遊量が比較的多く、前年・平年並みの水準であった。
- (2) 漁場: 漁場は11月3～4日に襟裳岬南120海里付近の三陸海域に接する海域において形成されたが、それ以降は形成されなかった。
- (3) 魚体: 魚体組成は、大型魚・中型魚・小型魚の割合が前旬と同様に2・5・3～2・4・4であった。

2) 三陸海域

- (1) 来遊量: 11月上旬の来遊量は、低位の水準であった前旬をさらに下回り、極めて低位の水準であった。
- (2) 漁場: 漁場は親潮第1分枝の先端付近の前線の変化に対応して、4～6日にかけて中部沿岸域に形成され、7～8日に南部沿岸域に広がったが、10日には中部沿岸域で散発的に形成されたのみであった。
- (3) 魚体: 魚体組成は前半に大型魚及び中型魚の割合が比較的多い群れも現れたが、全般には大型魚の割合が減少し、小型魚の割合が増加する傾向で推移し、特に後半には0-1-9の魚群も出現した。

3) 常磐海域

- (1) 来遊量: 11月上旬の来遊量は、前年及び前々年を上回り、1999年並みの水準であったが、平年の水準よりは下回った。
- (2) 漁場: 漁場は常磐南部～鹿島灘沿岸域の冷水の動向と黒潮の犬吠埼への接岸の動向に対応し、11月3～4日に日立～鹿島灘沿岸域に形成され、5～6日には犬吠埼周辺まで広がり、7～8日にはやや北寄りの塩屋崎付近まで移り、10日には再び犬吠埼周辺まで拡大して形成された。
- (3) 魚体: 魚体組成は大型魚・中型魚・小型魚の割合が2-4-4～2-3-5主体であった。